



くりはら たけのり通信 No6

OPEN UP THE FUTURE ALWAYS WE ARE THE FORFRONT OF CHANGE



共に杉戸の未来を切り拓こう。
いつも、私たちは変化の先頭に。

12月議会一般質問について

12月議会は11月25日（金）に開会され12月14日（水）迄20日間開催されました。議員による一般質問は29日（火）から12月1日（木）まで行われました。3月議会分より予定では録画配信になるそうです。



さて、私は仕事で傍聴できませんでしたが、内容は聞かせて頂きました。一般質問でのやり取りについては控えますが、町長への公約についてを始め町民の皆さんが聞きたくなる議員の質問であったと思います。杉戸町のホームページにある杉戸町議会に入り第5回12月定例会をクリックし12月定例会一般質問通告書一覧をご覧ください。また議会だよりを楽しみに待ちたいと思います。

2022年8月8日（日）に投開票された杉戸町長選挙から早いもので4か月が過ぎました。自分のこと以上にお手伝いして頂いた皆さんには感謝の日々です。そんな日々を振り返りながら、こんな杉戸を若者に贈ることができたら良いなと思う事を今回記させていただきます。町長は「役所の事務方が居れば誰でも出来る」と仰る方がいますが、皆様もご存じかも知れませんが、首長としてのマンパワーで自治体を大きく変えた代表的な3人をご紹介します。勿論面識はありませんし直接聞いたわけではなく、記事や発言を元に紹介します。

公人であっても著作権、肖像権がありますので、写真は掲載しません。まずは兵庫県明石市泉房穂市長(58)です。職員に暴言を吐きやり直し選挙をしたり、先日は議員に同じようなことをして2023年4月の任期満了で政治家を引退すると表明されました。話題には欠かさない人で、その後も自身が代表をつとめる地域政党を立ち上げると発表しました。因みにツイッターでのフォロワーは政治家の中で11位で37.6万人です。

※市長では大阪市長の松井氏42.8万人に次いで2番目です。

泉房穂市長が特化したのは、「5つの無料化」子育て政策です。

①18歳まで医療費無料②中学生の給食費無料③第2子以降の保育料無料④親子の遊び場利用料無料⑤満1歳までおむつ無料 この結果、人口は10年連続で増加。8年間で税収は32億円増えました。



彼は言い切ります「子育て支援に力を入れれば財政は良くなる」。

2人目は、千葉県流山市の井崎義治市長(68)です。

この市長は「マーケティング課」などで話題になりました。井崎氏は、アメリカに長年住んで都市計画コンサルタントとして働き、永住権も取得していたという異色の経歴の持ち主です。日本に帰国する際に自ら住む場所として選んだ流山市だが、その後、深刻な危機に直面しつつあった市をなんとかしたい、と市長に立候補し、2度目の挑戦で当選。今でも自分は政治家というよりも自治体の経営者と言い切る。マーケティング戦略を駆使し、メインターゲットを「共働きの子育て世代」としました。「母になるなら、流山市」のキャッチフレーズで転入超過、人口増加率で5年連続全国792市中1位。人口減少時代の今こそ「選ばれる自治体」を目指しています。他の自治体では補助金、医療費など、現金支給の施策をしているところもありましたが、共働き世帯が欲しいのは現金ではなくて、子育てしながら仕事もできる仕組みや環境です。

おおたかの森送迎保育ステーション



3人目は茨城県境町の橋本正裕境町長(47)です。

2014年境町長に初当選。現在3期目。就任後は、ふるさと納税7年連続茨城県1位、2017年より5年連続関東1位の寄付額を獲得。2021年度の受け入れ額が**48億8602万円**で、**5年連続関東地方で1位**。県内では7年連続でトップで、全国では17位につけた。返礼品の干し芋や常陸牛、コメなどの農畜産物が人気だった。全国に先駆けた取組を数多く手掛ける。全国町村最多となる「隈研吾」建築施設の整備。



自動運転バスの公道定常運行の開始など、全国に先駆けた取組を数多く手掛ける。



最近ではドローン、トラック連携の境町版スマート物流構築を目指しています。



3人の首長に共通していることは、財源を政策によって確保していることです。大きな政党や地方創生金や補助金頼りなどしていません。何よりも大切なのはグランドデザインをリーダーがもっていることです。どんな素晴らしい事業を進めていてもスタッフからは「どうなの？」「どうしたら良いの？」と聞かれるのがリーダーです。「君に任せる。考えてくれ」は丸投げです。新年早々天気予報では北日本で大雪警報です。不要不急な外出は控えないと先日のような20数時間も立ち往生することになります。常々思うのは、本当に自分たちの住んでいるこの地域は安心安全であるということ。2004年の中越地震も2011年の東日本大震災も被害を受けた家もありましたが、概ね道路や橋なども壊れず。また昨今のゲリラ豪雨も外郭放水路という施設があり大きな被害はありません。また埼玉県において洪水対策として毎年のように上流から流れ堆積する土を除去(浚渫)しています。まさにこのまちは「暮らし」「住環境」に特化するデジタル田園都市が一番良いと最近では考えています。

人口5万人を切る規模での企業誘致や大学誘致がたとうまくいっても短期的な効果しかありません。他の市町村を研究すれば自ずとわかります。使い古された言葉ですが「安心安全」であり交通網の整備されたすぎとまちは、余裕のある暮らしを若い世代にできるようにすることが必須です。余裕とは金銭であり時間。一時的に補助金を寄付しても本来の目的に使用されたかが、わかりません。だったらその分は最初から払わなくていいまちという政策をつくるのです。限られた資源において、財政を健全化するには「経営努力」と発想の転換です。そんなまちづくりを来年も調査研究していきます。

くりはらたけのり 近況報告

12月25日に、すぎとフードパントリーの手伝いで、一人親家庭80家族分のチキンとお菓子やお米の配布手伝いを行ってきました。子供たちの喜ぶ姿は最高ですね。定期的にこの団体を手伝っていきます。来年もご支援ご厚情を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



プロフィール 栗原偉憲(くりはらたけのり) 1964年11月17日(生年月日)

(株)栗原建設工業 代表取締役(職業)古利根川流灯まつり実行委員長(2008年~)(経歴)

発行:杉戸笑福の会 事務局 TEL 080-3121-0164

2022.12.30